

2023 年 1 月 JICA 月次レポート

生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業

<活動状況>

1. ラジオトークショーの実施（ムベンデ県）
2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送
3. Happy-Pad プロモーションセンター（ワキソ県）
4. 施設修繕が未完了の学校の経過観察（ムベンデ県 Christ the King 初等学校・Kiyita 初等学校）
5. 新規プロモーションセンターの設立準備（ブタンバラ県）
6. オンライントレーニングの実施（ブタンバラ県）

1. ラジオトークショーの実施（ムベンデ県）

1 月 19 日にムベンデ県チバリンガ準郡のラジオ局「Luna Fm」で 1 時間のラジオトークショーを実施し、生理用品を購入できない女子生徒が快適に学校に通えるようサポートするように地域の住民に呼びかけた。主な話題は、家庭及び新学期を迎える学校において月経時の衛生管理がしやすい環境を準備することであった。今回のトークショーではチバリンガ準郡の青年議会から議員が出席し、女子生徒が学校に通えることを目的に月経の課題に取り組んでいる当事業を高く評価してくれた。



ラジオトークショーを通して地域に啓発を行う SORAK 代表とプロジェクトオフィサー

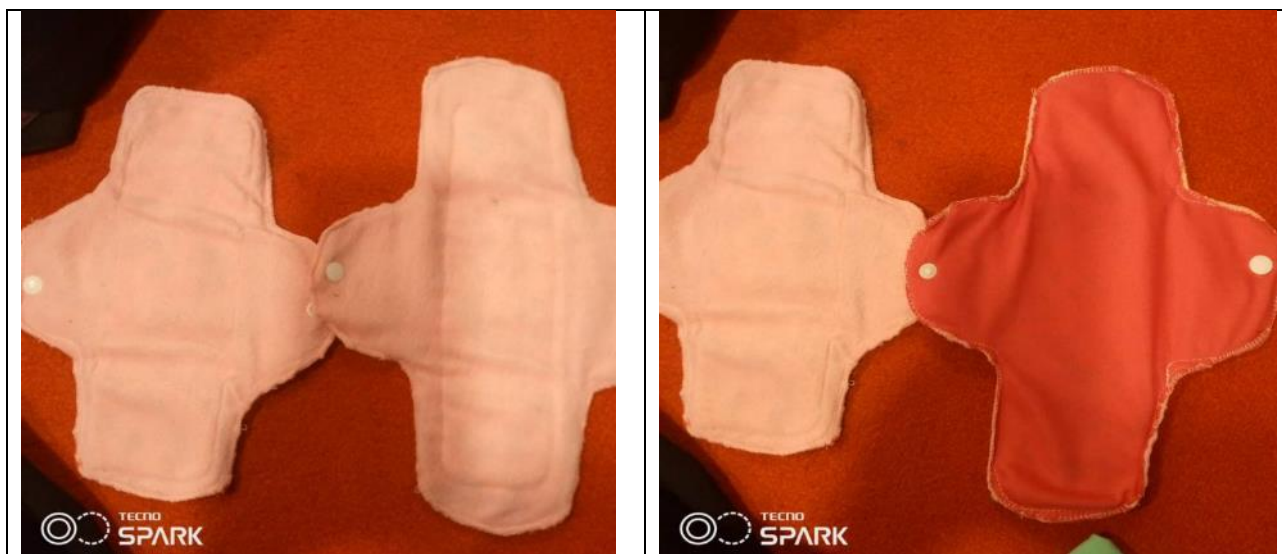
2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送

月経時の衛生管理、女子生徒の教育、生理用布ナプキンに関するラジオスポットメッセージを以下の通り放送した。

- ムベンデ県：Luna FM（1 日 6 回）
- ワキソ県：Voice Kiryagonja（1 日 10 回）
- ブタンバラ県：Voice of Butende（1 日 10 回）、Voice of Kikambwe（1 日 11 回）

3. Happy-Pad プロモーションセンター（ワキソ県）

12 月にプロモーションセンターでのナプキン作成トレーニングに登録した女性（4 名）は 1 月 20 日までトレーニングを受講した。受講生たちはトレーニングを経て布ナプキンを作成できるようになったことに対し非常に喜んでいて



トレーニング受講生が作成した布ナプキン

1 月はナプキンの生産を行わなかったが、プロモーションセンター近隣の家庭を訪問するなどマーケティング活動に注力した。

4. 施設修繕が未完了の学校の経過観察（ムベンデ県 Christ the King 初等学校・Kiyita 初等学校）

1 月は長期休暇中のために全対象校が閉鎖していたが、施設修繕が未完了の 2 校の校長に電話をかけ進捗状況を確認した。修繕工事は保護者から資金を募った後の次学期終了時（4 月下旬）までに終了予定であること、また新学期開始までは修繕作業を停止している状況にあることが分かった。

5. 新規プロモーションセンターの設立準備（ブタンバラ県）

プロモーションセンターを設ける場所を確保し、布ナプキンの生産及び作成トレーニングを担当するトレーナー 2 名（男性 1 名、女性 1 名）を雇用した。また、トレーニング受講者の募集を 1 月 24 日に開始し、女性 8 名、男性 2 名が登録した。今後も受講を希望する住民を継続的に受け入れていく予定である。



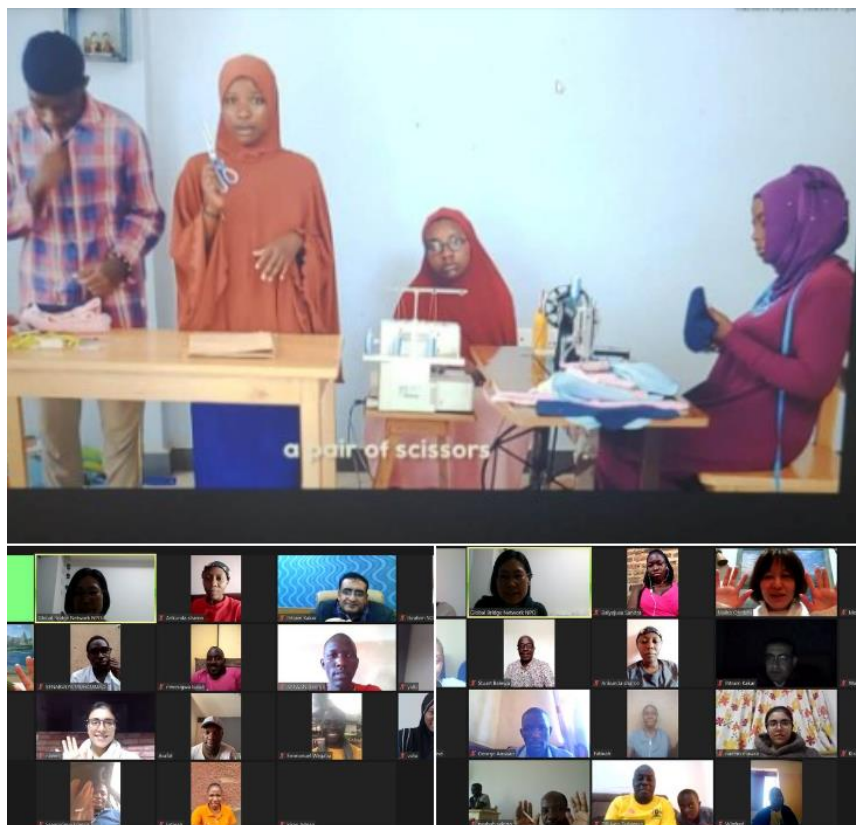
ブタンバラ県プロモーションセンター施設内部

6. オンライントレーニングの実施（ブタンバラ県）

出席者： Zoom セッションにはウガンダ及びパキスタンの市民団体の代表者が出席し、出席者数は 1 度目のセッションが 49 名（女性 30 名、男性 19 名）、2 度目のセッションが 39 名（女性 23 名、男性 16 名）であった。

1) 布ナプキン作成方法における動画デモンストレーション

ブタンバラ県チームは布ナプキンの作成方法を示す 20 分の動画を撮影した。必要な道具や材料、手書きでの型の取り方や採寸方法、布の裁断方法など、布ナプキンの作成手順を最初から最後まで説明した。



2) オンラインセッションの実施（2 回）

1 月 21 日にはウガンダの女子学生が直面している課題において議論するセッション、1 月 22 日には布ナプキンの作成方法においてデモンストレーションを行うセッションをそれぞれオンライン（Zoom）上で 2 時間ずつ行った。

セッション 1 は 2023 年 1 月 21 日午前 11 時（ウガンダ時刻）から開始し、ウガンダや他国の様々な地域で女子学生が直面している課題において自由に議論した。参加者との交流を図るため参加型形式を採用し、ウガンダのイガンガ県、ワキソ県、ムコノ県そしてパキスタンの参加者から経験談の共有を受けた。その中で特に注目すべき課題は、月経時の衛生管理に関する知識が乏しいのは女子だけでなく地域一般的であること、迷信やタブーが現在も存在すること、男性の介入が少ないこと、学校において生理用品や衛生管理施設が不足していること、月経時の衛生管理の観点において障がい者の包括度が低いことであった。現在対象地域であるブタンバラ県、ムベンデ県、ワキソ県で取り組んでいる課題が他の地域でも同様に存在していたため、上述の様な課題に対応する介入方法や活動方法についても議論を交わした。

セッション 2 は 2023 年 1 月 22 日午後 3 時（ウガンダ時刻）から開始し、始めに生理の貧困とその解決策としての介入方法について議論した。ナプキンが入手できないために用いられる不衛生な代用品による感染症、生理用品の引き換えとしての性取引や性的搾取、生理を理由にした女子生徒の退学や汚名など、生理の貧困を起因とした様々な影響が主な議題となった。また、自由質問形式のやりとりを通して再利用可能な布ナプキンに関する参加者の知識量

を見極めた上で布ナプキンの概要、使用する利点と使用方法、衛生的に使用するための注意点を紹介し、ワキソ県の Happy-Pad プロモーションセンターの活動紹介を行った。その後、参加者が布ナプキンの作成方法を学べるように事前に用意しておいたナプキン作成の動画を流した。

また、各セッションの終了前には質疑応答の時間を設け参加者からの反応を受け取るとともに、フィードバックフォームを参加者全員へ送信し入力を依頼した。

<事業による効果的な影響およびもたらした変化>

- チバリンガ準郡 Luna FM でのラジオトークショーに青年議会議員が出席し、女子生徒の出席率向上を目指す当活動を評価すると同時に、月経時の衛生管理やジェンダー平等、性と生殖に関する住民への啓発活動を実施するにあたって SORAK と協力していくことをトークショーの中で約束してくれた。（ムベンデ県）
- オンライントレーニングにおいて（ブタンバラ県）
 - 25 団体が出席し、他団体との新しいパートナーシップを形成する機会となった。また、参加者が積極的に発言し自身の経験などを共有してくれたことから、参加型形式が非常に効果的であったことが分かった。
 - 保健省のオフィサーより Happy-Pad が UNBS¹ による承認を得る必要があることを、イガンガ県の「Girls With a vision Uganda」代表より障がい者も対象に含めるべきであることを、「JENA Women Empowerment Initiative」の代表者より下着を購入できない人のためにナプキン付きの下着の導入も検討していくべきであることなど、参加者から様々な学びを得ることができた。
 - ほとんどの参加者はセッション終了時まで出席した。
 - オンライントレーニングを通して互いのチームからも学びを得ることができた。このようなトレーニングは事業実施において非常に重要であり、今後の活動にも生かしていける学びが多くあった。（ムベンデ県・ワキソ県）
- エボラ出血熱の感染拡大を受け予定していたほとんどの活動に影響が出たが、状況がようやく落ち着いてきたため活動再開の兆しが見えてきた。（ムベンデ県）
- ラジオトークショーの放送中にはリスナーから多数の問い合わせがあり、トークショーを通して共有される月経時の衛生管理の情報に感謝をしていること、また月経時の衛生管理の問題に関する情報提供を更に希望していることが分かった。（ムベンデ県）

<直面した問題>

- オンラインでのプレゼンテーション途中にインターネットの接続が不安定になったこと。また、セッションへログインする際に時間がかかったことを指摘した参加者もいた。（ブタンバラ県）
- 布ナプキンのマーケティングにおいて、プロモーションセンター周辺の家庭への訪問販売を試みるなど最適な販売方法を模索しているが、未だ課題である。（ワキソ県プロモーションセンター）
- 対象校が長期休暇期間であったため学校での活動が実施できなかったが、学校の再開に合わせ活動も順次再開していく予定である。
- 家具などをブタンバラ県のプロモーションセンターへ一部移動したため、ワキソ県のプロモーションセンターでの活動にも影響が出たが、工夫しながら運営を継続している。（ワキソ県プロモーションセンター）
- オンライントレーニングはそれぞれ2時間の実施であったためインターネット費用が高額になってしまい、セッション 1 参加後セッション 2 へ参加できなかった参加者もいた。（ブタンバラ県）

¹ 「The UNBS Product Certification Scheme」は消費者に製品の品質、安全性、信頼性を第三者として保証し認定することを目的としている。

- ・ 教員など電子機器を持っていないことからオンライントレーニングへの参加ができない者も多かった。

<提案>

- ・ Happy-Pad に品質やサイズにおける規定を設け標準化する必要がある。（ワキソ県・ブタンバラ県）
- ・ ナプキン作成トレーニングの受講を希望する者に対し、いつでもトレーニングを提供できるように準備しておく必要がある。（ワキソ県・ブタンバラ県）

<教訓>

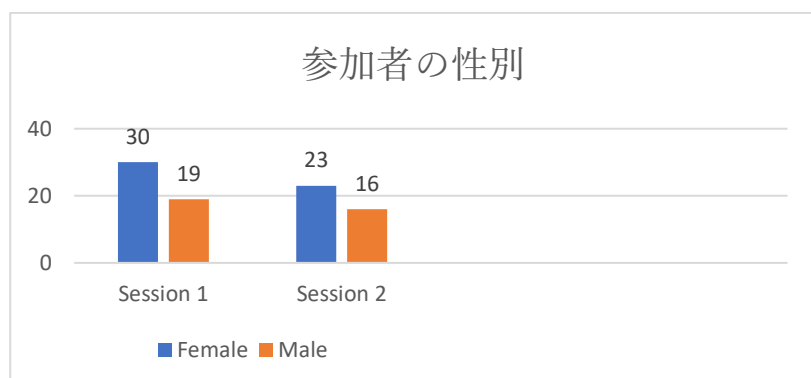
- ・ オンライントレーニングではオープンディスカッションが参加者を惹きつけ続けていたことから、参加者が積極的に参加することでよりトレーニングが効果的になる。
- ・ 障がいをもつ人々のニーズにも応えていくべきである。
- ・ 快適さを提供するためにも布ナプキンのデザインは適切な基準に従って作成されるべきである。
- ・ 布ナプキンの作成方法において、オンライン形式ではなく対面形式でのデモンストレーションを希望する者がいたため、プロモーションセンターへ招待した。（ワキソ県・ブタンバラ県）
- ・ 対象地域で課題となっている月経時の衛生管理に関する問題は他の多くの地域でも同様に見受けられる。

付録

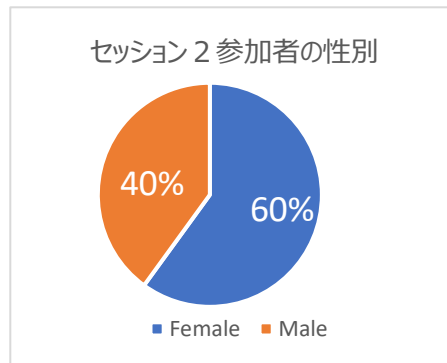
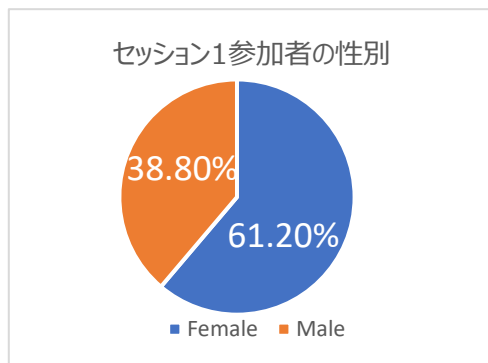
<オンラインセッションのフィードバック>

参加者はセッション中もセッション後もZoomチャット機能及びオンラインフィードバックフォームにて肯定的なフィードバックを寄せてくれていた。9割の参加者がトレーニングの内容は分かり易くまた有益であったと答えており、今後も他の団体やステークホルダーなど同様のオンライントレーニングを実施していくことを検討している。

	参加者	スタッフ	合計
セッション 1	41	8	49
セッション 2	29	10	39
合計	70	18	88



性別ごとの出席率:



出席者	女性	男性	合計
セッション 1	30	19	49
セッション 2	23	16	39
合計	53	35	88

参加団体:

以下の 25 団体が出席した。

1. Amacue Foundation	12. Girls With a vision Uganda
2. Health School Support Foundation	13. Visionary Lady Foundation
3. Ruth gaylord hospital	14. Awa Minami Tailoring School.
4. BRAC Uganda	15. Stitched by Wcraft
5. Creative Infants school Naguru	16. NPO Awa Cultural Heritage Forum
6. NPO Awa Cultural Heritage Forum	17. Golden Voice Foundation Africa
7. BRDRS	18. Joy for children Uganda
8. JENA Women Empowerment Initiative	19. Nimatabac Uganda Limited
9. Center for Education, Graduate Entrepreneurship and Empowerment	20. Youth Inclusion and Empowerment Network-YIEN
10. Sylvest Kikorongo Women Community	21. Creative infants Naguru
11. JICA Uganda	22. Tackle Africa
	23. Health School Support Foundation
	24. Uganda Youth Development Link
	25. Ministry of Health of Uganda

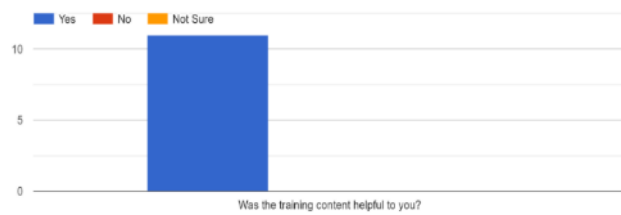
セッション1フィードバック

セッション1終了後 11 名からフィードバックがあった。

Q1. トレーニングの内容は有益でしたか。

A1. 返答の全てが「はい」であった。

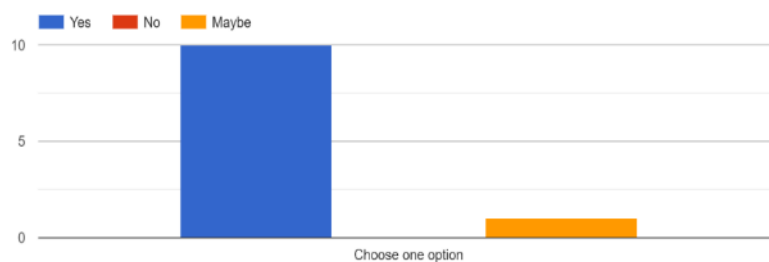
Was the training content helpful to you?



Q2. トレーニングの資料は分かりやすかったですか。

A2. 11 名が「はい」と答え 1 名が「多分」と回答した。

Was the training material easy to understand?



Q. トレーニングで最もよかった点はどこですか。

- ・ 全体的に良くできていたが、参加型の形式が特によかった。
- ・ 入念に準備されていた。
- ・ 司会者が自信をもって進行しており、参加者ともコミュニケーションがよくとれていた。また、参加者の発言を聞き逃すことなく皆の反応を共有していた点が非常に良かった。
- ・ 提示されていた資料が画像付きであった点が良かった
- ・ 参加者から出たコメントを司会者が要約して共有することで分かり易くなり、理解度も上がった。
- ・ 異なるステークホルダーや月経時の衛生管理における有識者たちの自由形式の議論が良かった。

Q3. 今回のトレーニングをどのように評価しますか。

A3. 8 名が「良い」と答え、3 名が「素晴らしい」と回答した。

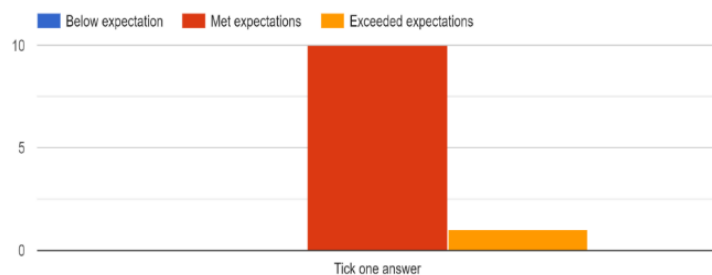
How would you rate the quality of this training session?



Q4. トレーニングはあなたの期待値にできていましたか。

A4. 10 名が「期待通り」と答え 1 名が「期待以上」と回答した。

Did the training meet your expectations?



Q. トレーニングをより良いものにする提案はありますか。

- ・ 時間管理の改善
- ・ セッションへのログインに時間がかかり、待たなければならなかった。
- ・ 女の子の健康などの関連する他の話題も含めることを提案。
- ・ 月経時の衛生管理における有識者の議論を聴くような学びのセッションをするも良いかもしれません。

セッション 2 フィードバック

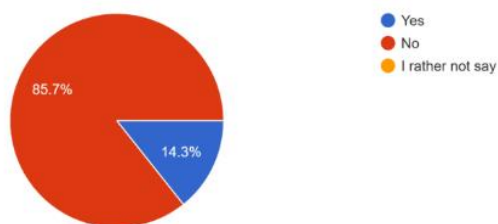
14 名から来たフィードバック内容は以下である。

Q1. 再利用可能な布ナプキンを使用したことがありますか。

A1. 青 14.3%「はい」、赤 85.7%「いいえ」

Have you ever used a reusable pad before?

14 responses

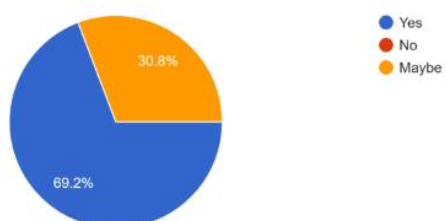


Q2. このようなナプキンを女の子たちにお勧めしますか。

A2. 青「はい」69.2%、黄「多分」30.8%

Would you recommend girls to use this type of pad?

13 responses



Q. 布ナプキンの使用はどのようなものでしたか。

- ・ 経血が漏れないか心配だった。また手洗いが大変だった。
- ・ 肌に触れる部分が柔らかく、快適だった。
- ・ 長持ちした。

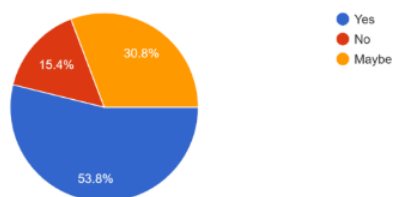
Q. 布ナプキンを選んだ理由は何ですか。

- ・ 肌荒れを起こさないから。
- ・ 良くわからない素材を用いた生理用品は感染症を引き起こす可能性があるが、その危険性がなく費用対効果も高いから。
- ・ 特に難民居住地区のように資源に制約がある地域に住む女子にとっては費用効果が高くよい。
- ・ 清潔に使うことができ、長持ちする。
- ・ 何度も使用できるため低価格であり環境にも良い。

Q3. セッション後布ナプキンの使用を検討しますか。

A3. 青「はい」53.8%、赤「いいえ」15.4%、黄「多分」30.8%

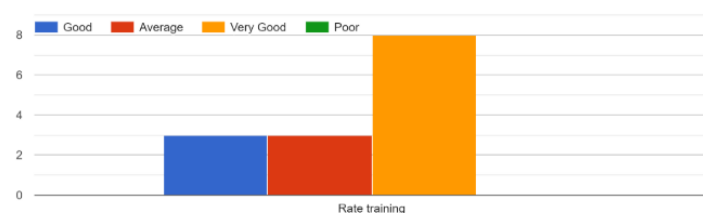
After this session, Would you consider using a reusable pad some day?
13 responses



Q4. ナプキン作成トレーニングは明確で分かり易かったですか。

A4. 8 名が「とても良かった」、3 名が「良かった」、3 名が「ふつう」と回答した。

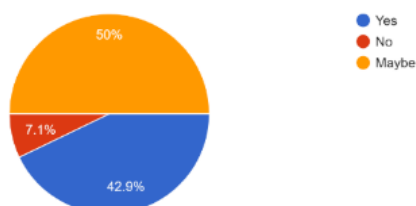
Was the pad making training clear and understandable?



Q5. セッション終了後、布ナプキンの自身で作成することはできそうですか。

A5. 青「はい」 赤「いいえ」 黄「多分」

After this training, are you able to make a reusable pad by your self?
14 responses



Q. トレーニングの中で最も興味を持った部分を教えてください。

- ・ ナプキンの作り方（複数名が回答）
- ・ ナプキンの採寸方法、生地選び方など
- ・ ナプキンをきちんと作るには正確な採寸が必要であること。
- ・ 月経時の衛生管理における全般、資材の管理、認識における重要性。
- ・ ナプキンが身の回りで簡単に手に入る資材で作ることができるという点。

Q. オンライントレーニングを改善するためのコメントはありますか。

- ・ 時間管理を徹底すべきである。
- ・ 動画撮影において照明やカメラの設置位置などを改善すべきである。
- ・ ナプキン作成の動画においてもう少し短くする、濃いインクを用いて作業中の手元を見やすくする、解説用の画像を用いるなど、改善できる点がある。
- ・ 声が小さかった
- ・ 月経時の衛生管理に関する課題はもちろんのこと、質の高い基礎教育の提供、女子の権利や法律における啓発など、今後その他の課題にも取り組んでほしい。
- ・ 議論を重点的に行うのであればグループ分けする必要がある。
- ・ 動画のアップロードに時間がかかっていた。
- ・ トレーニングは良かったが、受講した人がスキルを身に着けたのか評価する方法を検討する必要がある。